

平成 29 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06117

研究課題名(和文) ヒッタイトの神託文書

研究課題名(英文) Hittite oracle texts

研究代表者

佐久間 保彦 (Sakuma, Yasuhiko)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・研究員

研究者番号：20755376

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：今までに公刊されたすべての神託文書を収集して可能な限り接合を見つけ、使用された技術に従って分類した。鳥占い文書については、博士論文作成後に公刊された文書も含めて、他の技術との組み合わせ方を調べ、吉凶の判断が鳥の飛ぶ方向以外の要素に左右されるかを分析し、観察される鳥の種多様性を検討した。蛇占い文書については、共通点のある鳥占い文書とシンボル占い文書の両面から、述語の意味ならびに吉凶の判断について調べ、蛇を表す単語のより正確な同定をした。他の技術の神託文書についても編纂や分析に着手した。

研究成果の概要(英文)：Tens of thousands of Hittite texts have been published as hand copies and/or photographs. I looked through all of them and collected oracle texts containing special mantic techniques such as birds, snakes, livers, and symbols for receiving answers from the gods. Among the small tablet fragments I found as many joins as possible to restore larger original tablets. As for the bird oracle texts I researched into the combination of the techniques, the question of whether only bird flight directions affect the achieved results or not, and the species diversity of the observed birds. With regard to snake oracle texts, I established the meanings of the terms describing the movements of snakes, found the rules of the outcome, and identified the word for snakes. Further, I began to edit and analyze other oracle texts.

研究分野：ヒッタイト語

キーワード：ヒッタイト 神託文書 鳥占い 蛇占い 内臓占い シンボル占い

1. 研究開始当初の背景

紀元前2千年紀にアナトリア半島で繁栄したヒッタイト人は、シュメール文字とアッカド文字を混合した独自の楔形文字で書かれたヒッタイト語の粘土板文書を多く残した。主なものとして、年代記や条約などの歴史文書、法典、神話、儀礼文書や祭式文書や神託文書などの宗教文書が挙げられる。このうち神託文書は、神へ質問をし、一定の手段(技術)により神からの答えを得ることを記録した文書である。宗教文書の中で、儀礼文書や祭式文書と並んで多く残されているにもかかわらず、内容の難解さから研究が進んでおらず、編纂(翻字・翻訳・注釈)はほぼ手つかずである。占いの技術としては、動物の内臓、シンボル、鳥の飛行がよく使用されており、その中でも鳥の飛行を観察した神託文書(鳥占い文書)については、Archi 1975(文献²)やBeal 2002(文献³)、Ünal 1973(文献⁹)などいくつかの先行研究が知られている。しかし、いずれも専門用語の解釈には成功していない。その理由として、文書の成立時期の非考慮、残された文書の一部しか対象としないことに加え、動物学的知識の不足が挙げられる。また、専門用語が解釈できないために、鳥の飛行の詳細も把握できず、吉凶の仕組みも理解されず、したがって意味の通った翻訳が不可能であった。そこで研究代表者の博士論文では、現在残されている神託文書のうち、入手可能な全ての鳥占い文書を対象とした。まず、粘土板を中期ヒッタイト語と後期ヒッタイト語に分けた後、翻字をおこなった。次に、翻字をもとにして、鳥の飛行についての専門用語の意味を確定し、それを手掛かりに、飛行の方向から吉凶の解釈の基準を推測した。最後に、以上の結果を統合して文書の翻訳し、必要に応じて注釈を付けた。この博士論文(Sakuma 2009, 文献⁴)により、ヒッタイトの神託文書の研究状況は、以下ようになった。

鳥の飛行:技術記述の分析、吉凶判断の解明、文書の編纂は Sakuma 2009(文献⁶)。

蛇 MUŠ の遊泳:文書の編纂は Lefrève-Novaro & Mouton 2008(文献⁵)。

動物の内臓:技術記述の分析は Schuol 1994(文献⁷) 吉凶判断の解明は Beal 2002(文献³)。

シンボル:技術記述の分析と吉凶判断の解明は Archi 1974(文献¹)。

HURRI-鳥(ある種の鳥):文書の編纂は Tognon 2004(文献⁸)。

屠殺直後の羊:簡単な紹介は de Martino 2010(文献⁴)。

しかし、技術記述の分析、吉凶判断の解明、文書の編纂のいずれにおいても、量的にも質的にもいまだ不完全であった。そのため、さらなる研究が必要だった。

2. 研究の目的

上述の背景に示したような、従来の神託文書研究の不完全さを補うべく、すべての技術に対して、技術記述の分析、吉凶判断の解明、文書の編纂をおこなう。なお、これまでの研究状況の違いから、以下のように技術によって具体的な目的は多少異なっている。

(1) 鳥占い文書については、博士論文執筆後に公開された文書もあるので、それら新しい文書をもれなく集めたうえで、翻字・翻訳・注釈をする。そのうえで、もう一度博士論文の内容を吟味し、必要な範囲で修正する。また、技術の記述のみならず、鳥の観察者の名前や吉凶の結果などの項目が記されるようになった後期ヒッタイト語の鳥占い文書において、これまでは飛行の方向のみから吉凶の解釈の推測が行われていたため、鳥の種類や鳥の観察者など他の要素が吉凶の解釈に関わっていないかを調べる。

(2) 蛇占い文書については、Lefrève-Novaro & Mouton 2008(文献⁵)は翻字・翻訳において改善の余地があるので、写真との照合をして新しい読みをおこなう。また、そこで扱われている文書以外にも蛇占い文書も存在するので、探して対象とする。遊泳の記述では、鳥占い文書とシンボル占い文書それぞれと共通の、また吉凶の表現ではシンボル占い文書と共通の専門用語が使用されているので、鳥占い文書とシンボル占い文書をの研究成果を考慮して蛇占い文書を分析する。さらに爬虫類の蛇または魚類の鰻を表すとされていた単語 MUŠ について、遊泳の記述の分析結果に基づいて同定を試みる。

(3) 技術としてシンボル、動物の内臓、HURRI-鳥、屠殺直後の羊を用いた神託文書についても、鳥占い文書や蛇占い文書と同様に、該当の文書をもれなく収集して、技術記述の分析、吉凶判断の解明、文書の編纂をおこなう。

3. 研究の方法

(1) 当該技術を用いた神託文書すべてを収集する。

(2) 収集した神託文書どうしの接合を見つけて、よりまとまったテキストを構築する。

(3) そうしてできあがったテキストをアルファベットの翻字にする。

(4) 翻字から専門用語を抜き出し、出現箇所や組み合わせをもとに意味を確定し、技術の記述を解明する。

(5) 確定した専門用語の意味を手掛かりに、吉凶の解釈の基準を推測する。

(6) 以上の結果を統合してテキストを翻訳し、必要に応じて注釈を付ける。

4. 研究成果

(1) 鳥占い文書については、博士論文執筆後に公開された 5000 以上のすべての文書（多くは断片）に目を通した結果、後期ヒット語の鳥占い文書は新たに 11 個（質問数では 14 個）を確認できた。新たに発見した文書に対して翻字・翻訳・注釈をした後、接合できるものを接合した結果、全部で文書 251 個（質問数 604 個）となった。これらの文書を対象に次の項目について調査をおこなった。

まず、それぞれの鳥の飛行の観察が、新たに問われた質問に対してなされたものか（すなわち質問に対する最初の観察か）、それとも、質問の答えを何らかの技術の観察で得た後に、その結果を確認するためにおこなったものか（すなわち 2 番目以降の観察か）については、604 個の質問の中から、粘土板の欠けている部分が多いために正確な判断が不可能な 387 個を除いた 217 個のうち、最初の技術として鳥の飛行の観察をしたものが 151 個（70%）、2 番目以降にのみ鳥の飛行を観察したものが 66 個（30%）であった。また、まず鳥の飛行を観察した 151 個のうち、その後確認の観察をしなかったもの（観察の回数が 1 回のもの）が 136 個（90%）、したもの（観察の回数が複数回のもの）が 15 個（10%）だった。

また、観察の回数は、217 個の質問のうち、鳥の飛行の観察 1 回だけが上述の 136 個（63%）、鳥だけか他の技術と組み合わせると 2 回が 27 個（12%）、3 回が 43 個（20%）、4 回が 6 個（3%）、5 回が 1 個（0.5%）、6 回が 1 個（0.5%）であった。7 回以上はなかった。

さらに、技術として、鳥の観察（M と略記）のみをするのか、内臓（S と略記）やシンボル（K と略記）などと組み合わせるのか、組み合わせる場合にはどれをどのような順番で組み合わせるのかについては、鳥の観察のみをしたのは、217 個の質問のうち、上述した鳥の観察をただけでその後に確認をしていない M 型の 136 個と、鳥の観察の後に確認として続けて鳥の観察をした MM 型の 3 個の合わせて 139 個（64%）、それに対して他の技術と組み合わせられたものは 78 個（36%）であった。その 78 個における鳥と内臓またはシンボルとの組み合わせ方は、2 種の技術を 1 回ずつ使う場合、最初に鳥を観察した際には、確認に内臓を使う場合（MS 型）が 1 個でシンボルを使う場合（MK 型）が 3 個だったのに対して、確認に鳥を観察する場合では、最初に内臓を使う場合（SM 型）

が 3 個でシンボルを使う場合（KM 型）が 15 個であった。3 種の技術を 1 回ずつ使う場合は、最初に鳥を観察した際には、内臓、シンボルの順（MSK 型）が 1 個、シンボル、内臓の順（MKS 型）が 0 個だった。確認に鳥を観察した際には、最初に内臓を使用した場合は、確認で鳥、シンボルの順（SMK 型）が 1 個だったのに対して、確認でシンボル、鳥の順（SKM 型）は 17 個あった。

これらの結果から、鳥の観察をおこなう場合には、単独で用いられることがもっとも多いが、他の技術と組み合わせられることもあり、内臓、シンボル、鳥の間には内臓 > シンボル > 鳥の順に用いられる傾向があることがわかった。

また、吉凶の判断については、鳥の飛んで来る方向以外に、鳥の飛び去る方向、鳥の種、鳥占い師の要素に左右されるかを調べた。欠けない 29 個の観察記録を対象とした分析では、鳥の飛んで来る方向のみが吉凶の判断を決定し、他の要素は影響がなかった。

さらに、観察される鳥の種については、約 40 種のどの種がどの種とどの種を同時に観察するかを検討したが、これまでのところ、明確な傾向は見出されていない。この点については、更なる調査が必要と思われる。

(2) 蛇占い文書については、Lefrève-Novaro & Mouton 2008（文献 5）で扱われている 7 個の文書以外の文書も収集し、断片的で蛇占い文書と同定できるか不確かなものも含めて 20 個の文書の翻字・翻訳・注釈をした。これらの文書に関しておこなった調査は以下のとおりである。

まず、遊泳の記述の分析については、「来る」、「行く」、「消え去る」、「捕える」などの行動を表す動詞や、「上へ」、「下へ」などの上下方向を表す副詞は、鳥占い文書と共通であり、移動のおおまかな状況は把握できた。他方、出発点や通過点・到着点には、「幸福」や「病気」などのシンボル名が使われており、それらの具体的な位置は不明だったので、こまかな経路までは理解できなかった。

次に MUŠ の同定については、「上へ（泳いで）捕えた。（その後）水瓶の中へ向きを変えた。」という記述に着目した。「魚を捕えた」という場合と違って、上の方で何かを捕える際には捕えられる対象が明記されていない。そこで、空気を捕える、すなわち、呼吸をすると解釈した。えら呼吸ではなく肺呼吸をすることから、MUŠ は魚類の鰻ではなく、爬虫類の蛇であると結論づけた。

最後に吉凶の導き方については、吉凶の表現がシンボル占いと同じであること、遊泳の記述の中でシンボル名が登場することから、シンボル占いと同じ原理で吉凶が定められると予想した。解析した結果、予想通りシンボル占いと同様に、「幸福」などの良い意味のシンボル名と「病気」などの悪い意味のシンボル名の使用頻度により吉凶が決定され

ることがわかった。

(3) 鳥の飛行と蛇の遊泳以外の技術としてシンボル、動物の内臓、*HURRI*-鳥、屠殺直後の羊を用いた神託文書については、予想以上に文書の数が多かったため、適切な接合を見つけたり、技術の組み合わせによる分類をするのに時間がかかっており、現在まだ整理している段階である。したがって、翻字・翻訳・注釈ならびに技術の組み合わせの原理や質問との関係などの解析については、開始したものの終わっていない。そのため、現在申請中の挑戦的萌芽研究「ヒッタイトの占い文書の概観と分析」において続きをおこない、ヒッタイトの神託文書（占い文書）全体の解明に取り組む予定である。

<引用文献>

- 1 Archi, Alfonso, "Il sistema KIN della divinazione ittita", *Oriens antiquus* 13, 1974, 113-144.
- 2 Archi, Alfonso, "L'ornitomanzia ittita", *Studi micenei ed egeo-anatolici* 16, 1975, 119-80.
- 3 Beal, Richard, "Hittite Oracles", pp. 59-83, in *Magic and Divination in the Ancient World*, edited by Leda Ciruolo and Jonathan Seidel, Leiden - Boston - Köln: Brill-Styx, 2002.
- 4 de Martino, Stefano, "Hittite oracles on the behavior of the sacrificial ram at the time of its slaughter", pp. 61-64, in *Investigationes Anatolicae, Gedenkschrift für Erich Neu*, edited by Jörg Klinger, Elisabeth Rieken and Christel Rüster, Wiesbaden: Harrassowitz, 2010.
- 5 Lefrève-Novaro, D. & A. Mouton, "Aux origines de l'ichthyomancie en Anatolie ancienne. Sources textuelles et données archéologiques", *Anatolica* 34, 2008, 7-52.
- 6 Sakuma, Yasuhiko, *Hethitische Vogelorakeltexte*, Ph.D. thesis, Julius-Maximilian-Universität, Würzburg, Germany, 2009.
- 7 Schuol, Monica, Die Terminologie des hethitischen SU-Orakels. Eine Untersuchung auf der Grundlage des mittelhethitischen Textes KBo 16.97 unter vergleichender Berücksichtigung akkadischer Orakeltexte und Lebermodelle. *Altorientalische Forschungen* 21, 1994, 73-124, 247-307.
- 8 Tognon, Rosanna, *Gli oracoli MUŠEN HURRI : Una tecnica divinatoria ittita*,

Università degli studi di Napoli "L'Orientale", Italy, 2004. [未見]

- 9 Ünal, Ahmet, "Zum Status der «Augures» bei den Hethitern", *Revue hittite et asianique* 31, 1973, 27-56.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 0 件)

[学会発表](計 2 件)

1 佐久間保彦、ヒッタイトの蛇占い文書、日本オリエント学会、2016年11月13日、慶應大学三田キャンパス(東京都港区)

2 佐久間保彦、ヒッタイトの蛇占い文書、シュメール研究会、2016年6月18日、早稲田大学戸山キャンパス(東京都新宿区)

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

[その他]

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

佐久間 保彦 (SAKUMA, Yasuhiko)
東京大学・大学院人文社会系研究科・研究員
研究者番号：20755376

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者 なし

(4)研究協力者 なし